



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP wwfk.jimdo.com

女性労働セミナー パート①報告

非正規雇用の蔓延と女性労働



11月22日、女性労働セミナー パート①を開催しました。講師は君島千佳子会員でした。急に総選挙という事態になり、色々と予定が重なった為、残念ながら参加者は少数でした。

セミナーの内容は以下の5項目でした。

1「今、日本の働き方は」2「女性労働の実態」3「ジェンダー差別はどこから」4「非正規雇用と女性労働」5「人間らしい働き方をめざして」。

今、雇用者総数の4割が非正規労働者です。女性労働者の場合、非正規が6割を占めています。労働者の平均賃金は下がり続けています。そして、年収200万円未満のワーキングプアが増大しています。女性労働者の40%が200万円未満です。女性の賃金は男性の52%、これはOECD諸国の中で2番目に大きな格差です。

女性の低賃金の要因は低賃金職務への女性の偏り、小零細企業やパート・派遣労働への女性の偏りがあげられます。

いまだに性別役割分担は根強く、「男は仕事、女は家庭」、家事・育児・介護などの家族的責任は女性に。女性の労働は労働力の価値として低い評価(主たる生計者ではない)のままです。「安上がり労働力」とし

ての女性の活用が財界の戦略です。

非正規労働は女性からスタートしました。1950年代から女性が担うパート労働が拡大しました。家族責任を果たせる労働条件として、子育て後の女性がパート労働につきました。

1985年労働者派遣法が制定されました。「再度就業戦線に復帰したいという女性に雇用機会を提供している」(高梨昌2007 第三版詳解労働者派遣法)と述べられているように、多くの女性が派遣労働者として就業しました。結婚・出産で退職した後の職場復帰や新卒で就職出来なかった場合の就職先として派遣労働は増えています。

日本の派遣、パートなどの非正規雇用の特徴は均等待遇が確立していないことです。安上がり労働力として濫用されています。非正規雇用の均等待遇、雇用における男女格差の是正が必要です。

一方、正社員の職場は長時間・過密労働のままです。「過労死するほど働く」か、「生活出来ないような低賃金」か。どちらも人間らしい働き方とは言えません。労働時間短縮、均等待遇の実現、保育・福祉の充実などが求められています。そして何よりも直接雇用・無期雇用が当たり前の社会にしていけることが重要です。

参加者のひとりから派遣労働を経験した貴重な報告がありました。また、セミナー終了後のお茶会では安倍政権の「女性が輝く社会」に対する意見が続出。神奈川版「おばちゃん党」のように賑やかでした。思っていることを話し合える場が必要だと感じました。

記録 池田

青年と考えた

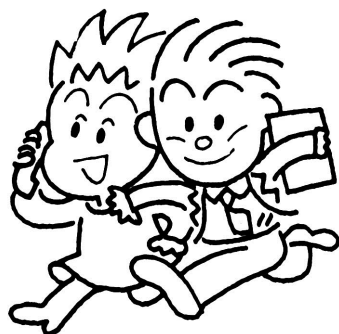
「ジェンダー平等論」

会員 藤田 まさ子

10月11日から13日、労働者教育協会主催による「全国学習交流集会」が千葉県で開催されました。数々のプログラムの中の1つ「ジェンダー平等論」についての分科会に参加したことをお知らせします。この集会は組織的に青年の活動家を育てるということに力点をおいています。したがって、ジェンダーの分科会も半分は20代、30代の青年が占めていました。特に、男性が多かったです。神奈川から参加したあるリーダー格の青年（男性）が、「ジェンダーって男らしさ、女らしさのことだと思っていたが、全く認識が間違っていた」と語ってくれたことが驚きであると同時に、このテーマをおいたことの重要性を痛感し、良かったと思いました。

問題提起されたのは、ジェンダー問題を研究されている神戸女学院大学の石川康宏先生です。まず、広く使われているジェンダーという用語は、当初フェミニズムから発せられた。社会に存在する事実や実態は人々の頭の中で作りあげられた感情や意識であるという「社会構築主義」という理論と結びついていたこと。そこにフェミニズムの社会構造の捉え方の弱点があったこと。1960年代後半からの第2フェミニズムの流れの中で社会制度を変えることが認識され、女性の労働力上昇の流れの先に1979年、女性差別撤廃条約がある。まっとうな社会人にするために人々は社会活動に参加すべきであることが当たり前となってきた。

ところが今、安倍首相の言う「女性を活用する」ということは、働く女性を効果的に活用し、雇用形態の差別で低賃金をしていること。社会保障の充実がないことに加えて、戦前型の家族感を語りだす始末。どうやってジェンダー平等を押し進めるか。大企業・財界に焦点をおいた男性優位の制度と思想を生み出す拠点の意識改革だけではなく、具体的な社会ルールの改



善が求められる。

また、私たちの認識を変えていかなければいけない課題として、ジェンダーの概念として、男女に分類だけでなく、セクシャリティ、トランスジェンダーなど「あらゆる性」の平等であり、女だから、男だからという枠の中で窮屈に生きていくことからの解放を、と話しました。

本当に人間らしく生きていくということがどういうことなのか。それが、すべての学習へのベースになっていく大事な視点であるという共通認識を分かち合えた分科会となりました。

映画が好き⑥

「0、5ミリ」

会員 池田 資子



「血」というものはやはり遺伝するのでしょうか。監督安藤桃子、主演安藤サクラ、プロデュース奥田映二、そして安藤和津がフードスタイリスト。家族総出で作り上げた映画です。

ヘルパーのサワはある事件をきっかけに、仕事、住まい、お金を失います。サワは町で見かけた独りきりの訳ありおじいさんに声をかけ、家に押しかけ、食事を作り、家事をこなし、老人の生活に入りこみます。初めは迷惑がっているおじいさんですが、その内サワのペースに巻き込まれ、一緒に居ることを楽しむようになります。食事のシーンが沢山出てきます。一緒に食事し、お酒を飲む場面は、娘と父親のようないい雰囲気です。サワは特にお金を求めている訳ではありません。こうして、食・住を確保出来ればいいのです。

出会うおじいさんは3人。息子夫婦と生活しなが

ら上手くいかず、家に帰りたくない人。他人の自転車を盗み、パンクさせることで気を紛らわしているひとり暮らしの人。1日の大半をショッピングセンターで過ごし、エロ本を万引きする元教師。サワは彼らに声をかけ有無を言わせず押し掛けますが、明るく優しい女性です。彼らの寂しさに寄り添い、親身になって世話をします。ずっと一緒には居られません。別れは来ます。老人たちは「ありがとう」と心からお礼を言います。

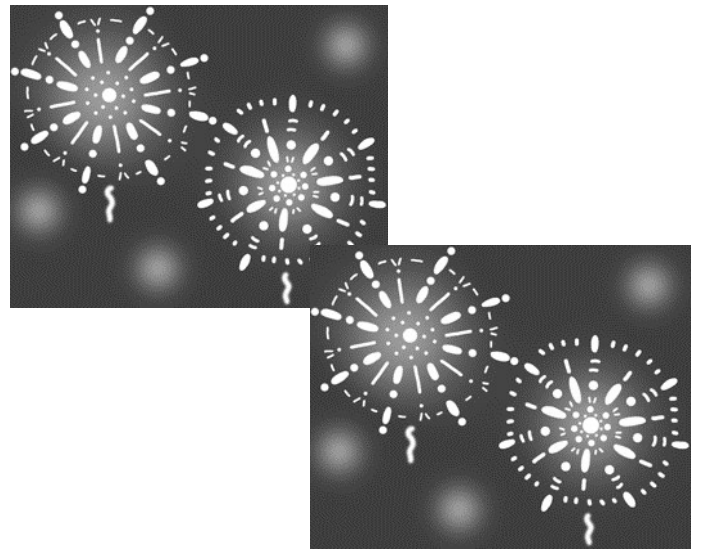
坂田利夫が、どこか寂しげで可愛いおじいさんを好演しています。ベテラン津川雅彦が戦争について語るしつこい程長いシーンは、今、この時期だからこそ心に響きます。不思議な人物も登場します。ひと言も喋らず、本を集めている若者です。マコト君？は事件で亡くなった老人の孫です。同時に母親が自殺したため、別れた父親と海辺の廃屋で暮らすようになっていました。この若者の秘密とは。どうして喋らないのでしょうか。廃屋での暮らしは今までのサワの暮らしとは違います。絶望的に思えますが……。

題名の「0、5ミリ」は何を表しているのでしょうか。「今日生まれる子も、明日死ぬジイさんもみんな一緒に生きているんだよ。お互いちょっとだけ、目に見えないくらいの距離を歩み寄ってさ」。サワの言葉に意味があるようです。3時間の映画ですがあっと言う間でした。この先サワとマコトはどうなるのか気になります。

世界一の長岡大花火の紹介

会員 鈴木 敏子

これまでも時折WWFKに顔を出させてもらっていましたが、この度、入会させていただきました。20数年前に高知大学から横浜国立大学へ来て、教員養成に携わってきました。2012年3月に定年退職し、思うところあって新潟県長岡市と二重生活をしています。生まれ育ったのは長岡市に隣接した町ですが、平成の大型合併で編入され、長岡市の歴史や出来事に関心を向けています。その一つは、日本三大花火の一つでもある「長岡まつり大花火大会」です。



毎年8月2日と3日の2日間、太陽が沈み始める夕方7時過ぎから2時間、大河、信濃川の河川敷で絶え間なく2万発の花火が打ち上げられます。「慰霊と復興、平和への祈り」を込めて。

1945年8月1日、22時30分、長岡中心市街地は爆撃されて焼け野原となり、1485名の犠牲者を出しました。戦前にもあった花火大会が1947年8月1日の「長岡震災復興祭」で再開されたのです。ですが、空襲を経験した人は長い間花火大会を見ることはできなかったそうです。山下清は長岡花火を描いたとき、「爆弾なんか作らないできれいな花火ばかり作っていたらきっと戦争なんて起きなかったんだな」と名言を残しています。

さらに2004年10月、長岡市は中越地震に襲われました。翌年の花火大会開催は危ぶまれましたが、むしろ復興祈願花火「フェニックス」を生み、平原綾香の「ジュピター」の曲に乗せて毎年夜空に舞い、羽ばたきました。それは東日本大震災の復興も祈願してきました。今年の中越地震後10年、「フェニックス10」には特別の想いが込められ、涙が出るほど感動的なものでした。

他にも数々の大型花火がありますが、花火大会冒頭に打ち上げられる3発の慰霊花火「白菊」は何ともいえません。この「白菊」は焼夷弾が落とされた8月1日の22時30分や、12月8日の夜空にも打ち上げられます。そして戦後70年の来年8月15日、慰霊と平和を祈念して、「白菊」3発は真珠湾で打ち上げられることになりました。今年の花火大会開始の挨拶で、長岡市長はハワイ・ホノルル市長とともにそのことを告げ、「長岡大花火は世界一だと信じている」と昇格させました。

秘められた戦争の裏側

会員 白井 洸子

10月4日。小田急線の生田駅で待ち合わせ、4人で登戸研究所へ向かいました。

登戸研究所の正式名称は、「明治大学平和教育登戸研究所資料館」で、2010年に開設されました。



登戸研究所の名前は、何回か耳にしたことがありましたが、実際に行ってみて戦争中の研究所が、そのままの形で残っていたことにまず驚きました。

戦時中、旧日本陸軍が主にスパイ活動などをする秘密兵器を開発するための研究施設で、外部にはけっして知らされなかったところでした。非常に広い敷地11万坪、建物100棟余、幹部所員250名、雇員・工員など合わせて総勢1000名に達する大規模な研究所でした。戦後その敷地の約半分を明治大学が建物ごと取得し、現在の明治大学生田キャンパスが開設されました。

今の資料館は、昔の36号棟、細菌兵器の開発棟で、建物そのものが貴重な戦争遺跡、その研究施設をそのまま保存・活用している全国でも唯一の事例だそうです。戦後、地域の歴史を調べようとした高校生たちや、市民の方々の熱意で、もと所員の方たちの証言や手記が明るみに出たとのことです。

展示されていた風船爆弾（ふ号兵器）は直径10㍍の風船、和紙をコンニャク糊で張り合わせたもので、約9300発が放たれ、1000発がアメリカに着弾したそうです。この制作には各地の女学生らが動員されていました。



その後広いキャンパスに点在する動物慰霊碑、偽札印刷工場跡、消火栓（陸軍のマークがある）、倉庫跡などを見て回りました。現在の生田キャンパスは、広々としており、校舎も立派で、昔の忌まわしい歴史のあとは資料館を除いて見当たりません。

この見学を終えて、多くの人たちに見てもらいたいと、医療生協の辻堂明治支部で話をし、11月に10数人でまた見学してきました。

戦争する国にしたい勢力が攻撃してきている現在、過去の歴史に学び、平和を守っていくためにも一度は訪れておきたいところです。



女性労働セミナー パート②

日時:2015年1月31日(土)13時30分~16時

場所:横浜市健康福祉センター902会議室(JR桜木町駅下車)

★「こんな時どうする—知って得する働くルール」

…解雇・長時間労働・パワハラ・セクハラ・マタニティハラスメント…

講師 川口 彩子さん(弁護士・川崎合同法律事務所)

【川口 彩子さんプロフィール】

川崎合同法律事務所所属弁護士。家事事件(離婚・DV・戸籍関係・相続等)・外国人事件・労働事件(労働者側)などに取り組む。資生堂・アンフィニ非正規切り事件、神奈川こころの自由裁判等の弁護団として活躍。著書に『となりのコリアン』(日本評論社2004年)がある。

身近な方にお声掛けをお願いします。